

東久留米市立第六小学校 第4学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章構成や文章の書き方ができない児童がいる。 語彙が少なく、言葉の意味や、文章を書く際の表現が分からない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く際に段落や句読点等の使い方を指導する。作文の推敲のポイントを指導する。 指導の時間を計画的に設定する。 漢字の学習の際に、その漢字を使った言葉も同時に指導する。辞書で語句調べを行う時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文帳のチェックをその都度行う。文章構成や書き方について、学年末までに身に付けさせる。 語句調べを読み物単元ごとに行い、その都度ノート等チェックを行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> グラフや写真、資料から差異や特徴などの情報を正しく読み取ることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや写真、資料の読み取り方を丁寧に指導し、読み取る機会を増やすとともに、読み取る必要性を実感できるような活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストやノートのまとめ等で資料活用 of 技能を確認する。(テストごと)
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数量感覚を養う機会や経験に個人差が見られる。 基礎的な計算(加法、減法、乗法、九九)の速さ、正確さにおける個人差が大きい。 2桁をかける計算で、半数以上の児童が正確に解答できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を操作する活動や視覚的に捉えることができる教材などを多く取り入れて数量感覚を養うとともに、図をかいて考える機会を多くつくる。 基礎計算(主に繰り下がり減法や九九)を繰り返し練習する機会を増やす。 朝学習でのeライブラリで2桁をかけるかけ算に取り組みできなかったところを繰り返し練習する機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークテストやワークシート等で、図が正しくかけているか確認する。(テストごと、正しくかける児童80%以上) ワークテストやeライブラリ確認テスト等で、正しく計算できているか確認する。(テストごと、正しく計算できている児童80%以上)
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果から考察をすることが難しい児童がいる。 根拠のある予想を立ててから実験に取り組むという学習が身に付いていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果や観察をから分かったことを自分の言葉で表すことができるように、学習のめあてを明確にめあてに合った考察ができるようにする。 予想、仮説、結果の整理、考察の流れを定着させ、予想を立てる際に根拠を明確にするよう 	<ul style="list-style-type: none"> ノート・ワークシート等で学習のめあてに合った考察ができているか見取る。(単元ごと) ノートに根拠と共に予想を書けているか確認する。(単元ごと)
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 個人練習の時間でどうやったらよいのか悩む児童が数名いる。 思いをもって工夫しようとするが、それを表現する技術が伴っていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士で見合えるペア学習を多く取り入れ、児童たちで技能を高められるようにする。 表現の方法をいくつか提示して参考にできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 2回に1度、一人一人の演奏を聴取し、児童の技能を確認する。 授業の様子やワークシート、演奏を聴いて確認する。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 発想力に個人差があり、考えを形にするまでに時間を要する児童がいる一方、豊かな発想で表現できる児童も増えている。 題材のねらいが理解できず、学習の楽しさを見出せない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 試行錯誤する時間を十分に確保し、自分の好きな表現や作りたいものを模索できるようにする。参考となる児童の作品を適宜紹介する。 必要に応じて個別指導を行う。 班で準備等の役割分担をさせ、学習に期待をもったり協力したりするよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 試した結果をアイディアメモや設計図としてまとめ、活用させる。(1題材につき1回以上) 机間指導で個別に声を掛けて確認する。 授業開始時に、学習に使う用具の丁寧な説明や班内の役割分担を行う。(毎週)

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を把握し、解決の仕方を見つけて、意図的に取り組むことが苦手な児童が多い。 ・運動量の確保と技能を向上させるための工夫が更に必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元において、体育ノートを活用し、自分に合った目標を設定しながら運動ができるようにする。また、チームで見合ったり、教え合い高め合ったりする機会を意図的に設定する。 ・運動に合った人数のグループで活動し、運動量を確保する。 ・学習カードに自己評価欄を設けて、自己評価をさせるとともに、行動観察を行う。 ・教員や児童による手本を見せたり、反復の練習をしたりしながらできたことを褒め、自信につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育ノートの記述や、授業中の活動の様子、発言等から全児童が自分に合った目標を設定しながら運動しているかを見取る。（単元ごと） ・運動量を意識して授業を組み立てるとともに、児童に自己評価をさせ、行動観察を行う。（単元ごと）
<p>道徳の教科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と結び付けて考えられている児童が限られており、児童一人一人が、自分のこととしてより深く考えられるようにしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の終末で、現実場面を想起して考える場面をつくり、自分の生活に立ち戻って考える時間を必ず設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間を毎時間設け、ワークシートに記述した内容から見取るとともに、日頃の生活の様子からも変容を見取る。
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な挨拶や単語の習得に、個人差がある。 ・自信をもって取り組んでいる児童が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動を通して、いろいろな挨拶や単語に触れる機会を多くする。 ・歌やゲームなど、楽しんでできる活動を工夫して、繰り返し声に出して練習する機会を増やし、自信を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の様子から児童の様子を見取る。（毎時間） ・挨拶ややりとりが、一人で受け答えできるようにする。（3学期末）
<p>総合的な学習の時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に考えたり、表現したりする力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに一つ以上の体験活動を入れ、実感を伴って意欲的に活動できるようにする。 ・多様な表現方法（新聞、劇、ポスターなど）を児童に紹介し、だんだんと児童自身が考えられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の活動の様子、発表時の様子などから児童の変容を見取る。（毎時間）